

まんざい

旭市立萬歳小学校

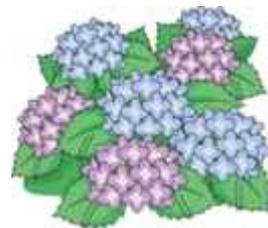
平成28年6月20日

No.3

《学校教育目標》

つよく おおしく たくましく
ともに高め合う
萬歳っ子の 育成

うっとりしい梅雨の時季になりました。今年の関東地方は、6月5日(日)ころに梅雨入りで例年より3日早いとのこと。梅雨の時季は、曇りや雨の日が多くなって洗濯物が乾きにくくなったり、かびが発生したり、食中毒が増加したり等、気持ちの上でも何か重苦しいすっきりしないような印象があります。しかし、この時季の雨は、真夏の農業用水や飲料水の確保という大切な側面ももっています。今年、空梅雨傾向なのか、雨が少なく関東北部のダムの貯水量もあまり多くはないようです。雨が多すぎても洪水などの被害の心配がありますし、また、少なすぎても灌漑や飲料用水が不足するといった事態にもなりかねません。適度な恵みの雨が降るような梅雨になるといいですね。



今年の重点課題から (学習面)

本校では、全国学力状況調査の外に、千葉県標準学力検査を毎年実施しています。その結果を見ると、ほとんどの学年が国語、算数、理科について、県平均点を上回る結果となっています。学年が進むにつれてその傾向が強くなっています。

本校は、各学年とも10名程度の少人数で組織されており、学級担任が一人一人に個別指導がしやすいというメリットがあります。また、全国学力状況調査で1位の秋田県では、3世代家族が多いといった傾向があるとのこと、本校も同様の家庭環境にあると思えます。こうした現状を踏まえた上で本年度の重点を以下のように設定しました。



(1) 朝自習の充実 (基礎学力の定着: 15分)

①ドリルタイム (月・水・金)

水曜日: 漢字 新出漢字の練習, 確認テスト
金曜日: 計算 計算ドリル, ミニテスト, 百マス計算
チャレンジ 100 (国・算) 発展

②読書タイム (火・木)

読書, 音読, 群読, プットーク,
読み聞かせ (母親読書部, 図書館司書, 6年)

(2) 読書への取組

①低・中・高学年で目標の冊数を設定, 目標を達成したら担任から読書賞を授与。

②読書週間 (2学期)

③学校図書館司書との連携 (毎週木曜日)

昼休み: 紙芝居, 読書クイズ, 読み聞かせ



(3) 家庭学習の習慣化

①低学年20分, 中学年40分, 高学年60分 (宿題の時間を含めて) 学年が進むにつれて自主学習に取り組む時間が増加するよう指導を積み上げていく。

②家庭学習の意欲化のために
・学年だよりでの様子紹介
・自学ノートを見合い



家庭での学習という、とかく宿題というイメージが昔からありますが、宿題は、個人の実力に必ずしも見合っていないため、同じ課題でも10分で終わる児童もいれば60分か

かる児童もいます。余りにも簡単すぎる場合には、能力が高まらないし、難しすぎるとやる気にならないなどの問題点があるわけです。親も「宿題やったの?」「やったよ」という毎日のやりとりで安心してしまいうようにも思います。家庭で学習する習慣を身につけることや自分に合った課題を見つけること自分なりの学習時間を設定することは、中学校期, 高等学校期にかけてとても大切なことです。その基盤作りが小学校期です。

(4) 校内研修の取組

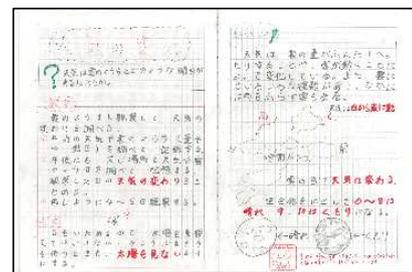
①研究教科 理科・生活科

②研究主題 科学的思考力・表現力を高める学習指導の在り方

③昨年度までの取組の成果

学年が進むにつれて県平均より上回っている項目が増加してくる傾向にある。

日々の授業改善とともに、本年度は上述の4点を学力向上の重点として取り組んでいきたいと考えております。



【校長室より】

「ヒヤリハット」から「ニヤリホット」へ

ある新聞記事から「ニヤリホット」という言葉が目にとまりました。東京にある有料老人ホームで取り組んでいることだそうです。

「ニヤリホット」に似た言葉に「ヒヤリハット」があります。「ヒヤリハット」は文字通り、突発的な事象やミスにヒヤリとしたり、ハッとしたりするものです。ヒヤリハットの事例を集めることで、重大な災害や事故を予防することにつながります。「ニヤリホット」は、思わず「ニヤリ」と笑ってしまったり、「ホット」心が温まったりする出来事をいうそうです。

例えば、車いすの利用者がスタッフの見ていないときに立ち上がって歩こうとした出来事を、「ヒヤリハット」なら「転倒につながる！」と危険性に着目するのに対して、「ニヤリホット」では「自分で歩こうと頑張っている！」と、捉えて報告し合うそうです。



安全重視はもちろん大切ですが、マイナス部分ばかりに目を向けて不注意を責めるような雰囲気では、そこで働くスタッフもピリピリしまい、利用者にも悪影響を与えてしまうかもしれません。

人の「いい部分」に着目する姿勢は、やる気や意欲を高める上で大切なことは言うまでもありません。萬歳小学校も「ニヤリホット」で子どもたちの笑顔があふれる魅力ある学校づくりに努めていきたいと思えます。

(校長 木村 仁)

むという方向に運動会のねらいも変化してきているように思います。

また、地区民運動会を兼ねるということで、保護者や地域の皆様にたくさんの種目に参加いただき、楽しい一日を過ごすことができました。お忙しいところご協力



いただきありがとうございます。

また、萬歳小では、この運動会で萬歳地域で80歳を迎えられた方を褒賞してまいりました。本年度は、13人(昭和11.4.1~12.3.31)の対象者がいらっしゃいましたが、当日は残念ながらご欠席とのことで、PTA本部役員方がご芳名の紹介とPTA地区委員長に代理をつとめていただき、賀状と記念品の贈呈を行いました。後日、PTA地区委員長に各ご家庭までお届けいただきました。



地域の中の学校、地域と共に歩む学校ということを再認識することができた一日でした。

スポーツ心のプロジェクト「笑顔の教室」

6月9日(木)にスポーツ笑顔の教室が5年生を対象に行われました。以下5年の学年だよりを再掲する形で、紹介したいと思います。

『「スポーツこころのプロジェクト」は、日本のスポーツ界が一丸となって、東日本大震災で被災した「すべての」子どもたちの、「こころの回復」を応援するためのプロジェクトです。(スポーツ心のプロジェクトホームページをご覧ください。)

<http://www.sports-kokoro.jp/pc/>

今年の講師は、**新井誠治** さんでした。

埼玉県出身。小学校6年時に柔道を始め、全日本理工学生大会などで優勝するなど活躍しました。愛知県実業団での優勝後、後進の指導にあたっていました。2004年に悪性リンパ腫を発症。抗がん剤治療のかいもなく左足を切断、その後さらに病状は悪化したものの、2005年8月に「さい帯血移植手術」を施し、一命を取り留めました。切断障害を負ったため柔道界への復帰は断念し、数々の障害者スポーツを通じてリハビリを進め、2006年10月に社会復帰を果たしました。2010年にアンブティサッカーと出会い、日本で初めてチームを結成。ワールドカップに3回出場しました。

現在は、選手として活躍する傍ら、アンブティサッカーの普及活動にも取り組んでいます。

※アンブティサッカー(amputee soccer = 切断者サッカー) 』



新井誠治さんとのふれあいやお話から子ども達は、たくさんの大切なことを学んでくれたと思います。

楽しかった運動会

5月28日(土)に運動会が実施されました。前日は、降雨のため準備ができず、グラウンド状態も心配されましたが、当日は、風のない穏やかな曇り空となり、最高のコンディションで各種目を行うことができました。



今年小学校体育大会が5月18日(水)に実施ということで、練習期間が大変短い中で当日を迎えることになりました。昔のように隊列を組んでの入場行進や組体操など東京オリンピックをイメージするような運動会から、子ども達が精一杯活動や運動しながら子ども達自身も運動会を楽し